

(別添2)

No.	10
策定年月	令和4年4月
見直し年月	

麦・大豆産地生産性向上計画
上小阿仁産地
(作成主体: 上小阿仁村農業再生協議会)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

主食用米の国内需要が減少する中、秋田県上小阿仁村ではこれまで水田活用の直接支払交付金等を活用して大豆への転換並びに生産振興を図ってきたが、条件不利な中山間地域であることに加え、大豆の安定生産に必要な不可欠な栽培技術の励行が十分ではなかったことから、単収が県平均よりも低く、大豆の生産量は少なかった。

しかし、近年、地域の農地の受け皿として大規模経営を目指す法人が設立されたことを契機に、実需者が求める大豆を安定供給できる生産性の高い産地づくりに向けた取り組みを推進している。

上小阿仁地域の将来を見据えた担い手への農地集積や団地化を検討するとともに、大豆の高品質・安定生産に寄与する当産地の取り組みをより一層加速化させるため、本計画を策定する。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

【現状】

地域で生産されている大豆(R2:5t)のうち、約3/4が秋田たかのす農業協同組合と全農あきたを通じて秋田県外の業者に出荷され、納豆などの大豆加工品として販売されている。残りの約1/4は卸業者である(株)芳コーポレーション(東京都)を通じて実需者に出荷され、味噌、醤油に加工され販売されている。

【課題】

生産量が少なく、実需者の求める大豆産地となっていない。実需者との意見交換を重ね、需要に応じた大豆の安定供給と品質の確保に取り組む必要がある。

(2) 生産における現状と課題

【現状】

- ・大豆の作付面積は微増で推移している(R元;17ha、R2;18ha、R3;19ha)。
- ・地域の中心となる担い手への農地集積が加速化する中、大豆の生産拡大に向けて効率的に作業できるよう団地化の取り組みを始めている(R元;0ha、R2;0ha、R3;約8.0ha)。
- ・大豆の高品質・安定生産に必要な排水改良対策や有機質資材の施用による土づくり、適切な肥培管理の取組が十分に行われておらず、上小阿仁地域の大豆の単収は秋田県の平均単収150kg/10a(H27年~R元年)よりも大幅に低い(R元;8kg/10a、R2;27kg/10a、R3;9kg/10a)。
- ・中山間地域であり、10a未満の区画の小さいほ場が多いため、作業性が悪く、播種を行えないほ場端部の割合が区画整理されたほ場と比較して高いことも生産性が低い要因の一つである。
- ・機械は他者から借用している。大豆生産の拡大に見合った機械を所有していない。

【課題】

- ・大豆生産の拡大に向けて作業効率を高められるよう、地域全体で担い手への農地集積や団地化を推進する。
- ・大豆の高品質・安定生産に向けて、土づくりや肥培管理等の基本技術の励行はもとより、先進的な排水対策技術の導入を推進する。
- ・精度の高い播種、栽培管理作業に資する機械を導入する。
- ・中山間地域の区画の小さいほ場でも作業性が良く、生産性向上に寄与する機械を導入する。
- ・大豆生産の拡大と適期作業の両立に資する機械を導入する。

(3)実績

① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)
小麦										
大麦										
作物計										

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)
大豆	リュウホウ	(17) 17	(18) 18	(19) 19	(8) 8	(27) 27	(9) 9	(1.5) (1.5)	(4.9) (4.9)	(1.7) (1.7)
作物計		(17) 17	(18) 18	(19) 19	(8) 8	(27) 27	(9) 9	(1.5) (1.5)	(4.9) (4.9)	(1.7) (1.7)

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

② 団地化

作物名	品種名	令和元年産		令和2年産		令和3年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦								
大麦								
作物計								

作物名	品種名	令和元年産		令和2年産		令和3年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	リュウホウ	(0) 0	(0) 0.0%	(0) 0	(0) 0.0%	(7.5) (7.5)	(39.4%) 39.4%	
作物計		(0) 0	(0) 0.0%	(0) 0	(0) 0.0%	(7.5) (7.5)	(39.4%) 39.4%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

当地域は中山間地域であり、大豆作付ほ場の半数が10aに満たない区画の小さいほ場であるため、秋田県の団地化面積基準の1/2となる「2ha」以上を団地化の基準として算出する。

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨を記載すること。

※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は必ず記載すること。

3. 課題解決に向けた取組方針・計画

(1) 取組方針

- ①需要に応じた生産と販売の実現
地域で生産された大豆は系統又は卸業者を通じて納豆や味噌、醤油に加工されている。堅調に推移すると見込まれる国産大豆の需要を踏まえ、実需者との意見交換を重ね、ニーズに対応した大豆の安定供給を実現する。
- ②団地化の推進
上小阿仁産地における大豆生産の将来を見据え、ほ場条件や田畑輪換体系等を考慮した団地化ほ場を選定するため、地域の生産者を交えた検討を行う。
- ③先進技術の導入
先進技術であるカットブレイカーによる心土破碎に取り組むことで排水性を改善し、生産性の向上を図る。
- ④農業機械の導入
 - ・大豆の生産拡大に対応した効率的な作業が可能で、生産性の向上に資する機械導入を推進する。
 - ・ほ場の排水性の改善に効果を発揮するカットブレイカーを導入する。畑地化が期待できるリバーシブルプラウと碎土に必要となるバーチカルハローを導入する。軟弱なほ場条件でもこれらのアタッチメントを牽引できるハーフクローラタイプのトラクターを導入する。
 - ・連作による地力低下が懸念されているため、マニアスプレッダを導入して堆肥を散布することで地力回復に努める。
 - ・小回りが効き、中山間地域の区画の小さなほ場でも播種が可能で、自動操舵システムを搭載し精度の高い栽培管理のできる管理作業車を導入する。
 - ・大豆栽培の規模拡大に向けて、適期に効率的な収穫作業が可能なコンバインを導入する。

※ ①需要に応じた生産と販売の実現、②団地化の推進については必ず記載する。③以降は産地の実態に即して記載する。

(2)計画

① 生産量

作物名	品種名	令和3年産(現状)			令和10年産(目標)			備考
		面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	
小麦								
大麦								
作物計								

作物名	品種名	令和3年産(現状)				令和9年産(目標)				備考				
		面積(ha)		単収(kg/10a)		面積(ha)		単収(kg/10a)						
大豆	リュウホウ	(19.0)	19.0	(9)	9	(1.7)	(1.7)	(29.0)	29.0	(65)	65	(18.9)	18.9	
作物計		(19.0)	19.0	(9)	9	(1.7)	(1.7)	(29.0)	29.0	(65)	65	(18.9)	18.9	

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

※ 現状値は、計画策定時に数値が把握できる直近の年産を記載する。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 目標年は計画策定年から5年後に生産(麦においては播種)する年産とする。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 災害等により、現状値として直近年を用いることが適当でない場合は、現状値を7中5とすることが出来る。その場合備考欄に明記すること。

② 団地化

作物名	品種名	令和2年産(現状)		令和10年産(目標)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦						
大麦						
作物計						

作物名	品種名	令和3年産(現状)		令和9年産(目標)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	リュウホウ	(7.5) 7.5	(39.4%) 39.4%	(17.3) 17.3	(59.7%) 59.7%	
作物計		(7.5) 7.5	(39.4%) 39.4%	(17.3) 17.3	(59.7%) 59.7%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。

※ 現状値については、原則、大豆は令和元年または2年産、麦は令和2年産または3年産の数値を記載すること。

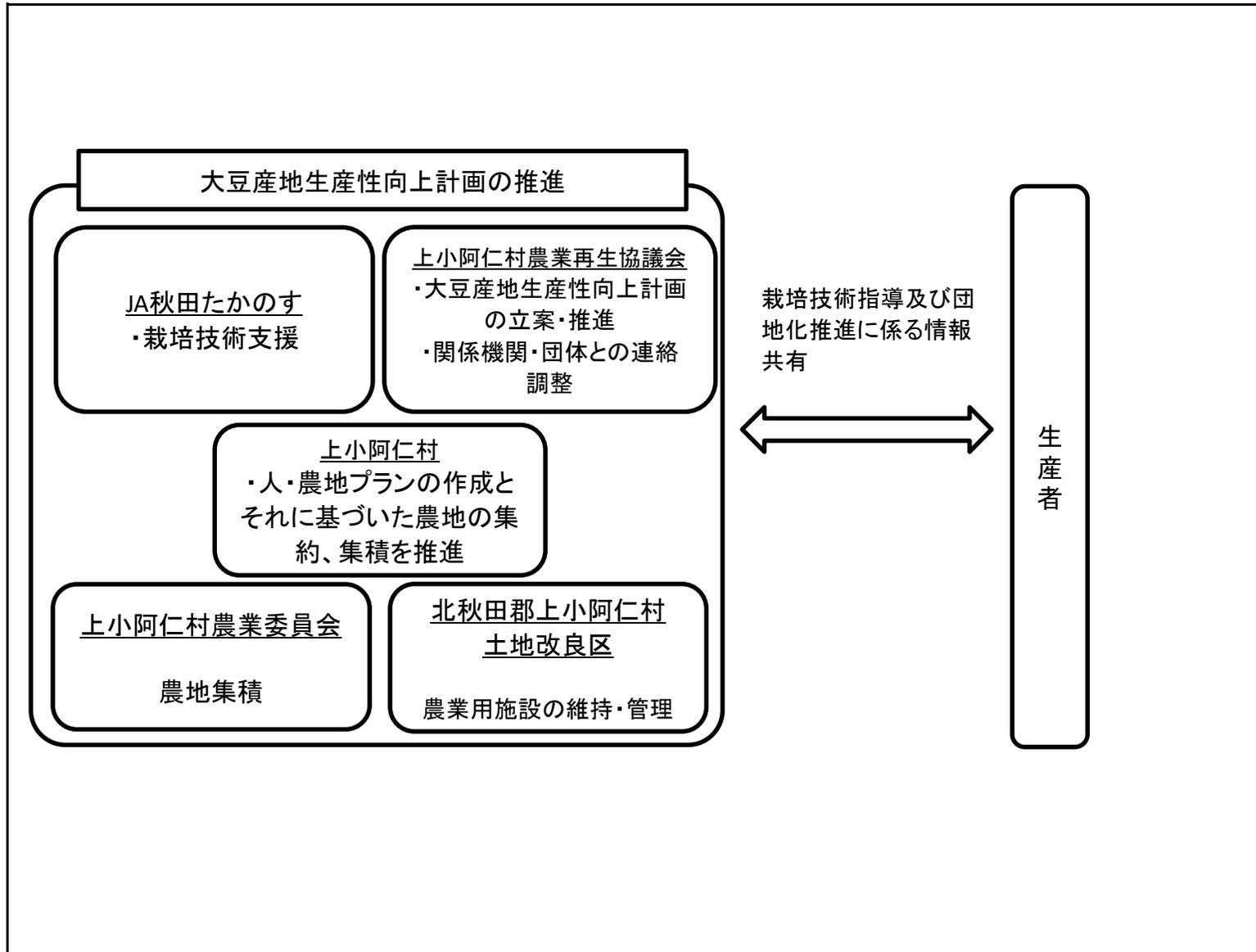
※ 目標年は計画策定年から5年後に生産(麦においては播種)する年産とする。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目(作物)の作付面積に占める割合を指す。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

4. 推進体制及び役割



5. 他計画・プラン等との連携

	連携する計画・プラン等名称	作成年	備考
1	上小阿仁村水田収益力強化ビジョン	令和4年	作成予定
2	人・農地プラン	令和3年	
具体的連携内容 本事業の実施にあたっては、村の人・農地プランと水田収益力強化ビジョンの取組方針と整合を図る。人・農地プランにおいては、プランの見直し時に大豆増産や団地化の推進を含めた内容になるよう考慮して作成する。水田収益力強化ビジョンにおいては、生産量を向上させる技術の取組を推進し、収益力向上と面積拡大を図る。			

6. 活用予定の事業

関連	事業名	備考
○	水田麦・大豆生産性向上事業	この事業により、生産性向上に資する先進技術や機械を導入し、団地化の推進と面積拡大を推進する。

※別紙第6の事業に該当する場合は、「○」を入力してください。その他の事業を活用する場合は「-」。

※備考欄には、活用する時期や具体的な取組内容を記載すること。